

令和元年度 因島北認定こども園 自己評価結果

1 因島北認定子ども園教育・保育目標

『心も身体ともに豊かな人間形成の基礎を培う』

(1) 感じる力・気付く力をつける

身の周りの自然、人、出来事などに心が動き、興味を持って関わる中で、その面白さ、不思議さ、心地よさ、辛さ、悲しさ、優しさなどを感じ取る力

(2) うごく力をつける

自分のやりたいことへ向かって、心と身体を積極的に働かせて取り組み、自分の体を自由にコントロールして遊んだり、状況に応じて適切な行動をとったりする力

(3) 考える力をつける

やりたいことを実現するために、必要物や情報などを集めたり、実現するための方法を考えたりする力

(4) やりぬく力をつける

困難や失敗があってもあきらめず、自分の気持ちを立て直し、『やればできる』という気持ちを持って、粘り強く取り組み、やり遂げる力

(5) 人と関わる力をつける

表情や言葉を通して、互いの思いや考えを伝えあったり、折り合いをつけたりしながら、多様性を受け入れ、様々な人との良い関係を築く力

2 本年度に定めた重点的に取り組むことに必要な目標や計画をもとに設定した因島北認定こども園の評価の各年齢の具体的な目標や計画

0歳児…子どもが快適に、健康で安全に過ごせるようにする。 (1) (2)

生理的要求在十分に満たされるようにする。

1歳児…保育教諭と一緒に好きな遊びを楽しむ。 (1) (2) (5)

一人一人の気持ちを受けとめながら、生活リズムを整える。

2歳児…好きな遊びを楽しみながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。 (1) (3) (5)

食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。

3歳児…基本的な生活習慣を身に付ける。 (1) (2) (5)

友達と一緒に遊びを楽しみ、友達との関わりを広げていく。

4歳児…集団生活の決まりや約束を守り、遊びを楽しむ中で友達とのつながりを広げ

お互いに認め合う仲間作りをする。 (1) (2) (4) (5)

自分の思っている事を皆の前で話し、人の話を聞く態度を養う。

5歳児…友達と協同的な遊びをしながら、最後までやりとげる力を養う。

共通の目的に向かって考え、話し合う力を養う。 (1) (2) (3) (4) (5)

3 評価項目の達成及び取り組み状況

A	十分達成されている	C	取り組まれているが成果は十分ではない
B	達成されている	D	取り組みが不十分である

評価項目	内容	結果	理由
子どもの発達援助 (1) 発達援助 の基本	○一人一人の園児の発達状況に配慮した指導計画を作成し、定期的に評価を行い、その結果に基づき指導計画の見直しを行われているか。(PDCAサイクル)	B	<p>尾道市子育て支援課が招聘した岡山大学大学院教育学研究科 横松 友義准教授の研修会に参加しその指導に基づき、週間指導計画の様式に改良を加え、より子どもの姿に添った指導計画を作成することができた。</p> <p>年間を通して週に1回、教育関係者(法人内顧問及び元小学校校長)を招き指導計画・指導内容(活動)について指導を受け、教育・保育内容の向上を図った。</p>
(2) 健康管理 ・食育	○一人一人の健康状態に応じた健康管理が行なわれているか。	A	<p>毎月看護師が保健だより「げんきっこだより」を配布したり、毎日欠席児の罹患状況を掲示板で保護者に知らせたりすることで、健康への啓発が出来た。</p> <p>インフルエンザやその他の感染症では、家族の中に罹患者がいる場合、送迎者が園内に入らないよう門にて子どもを預かる門対応の方法をとった。</p> <p>園内でも手洗い、うがいの励行を行った。</p> <p>0・1・2歳児クラスでは、登園時に毎朝保護者に検温してもらい健康管理を意識してもらっている。登園時の検温による保護者とのスキンシップが園児の情緒に安定をもたらし安心して集団生活に入っていくことにつながっている。</p> <p>また、食物アレルギー児に対しては、専門医の検査結果や指示書を基に、保護者・園長・看護師・担任・管理栄養士・調理員と面談を行い安全な除去食の給食を提供している。</p> <p>各クラスでは、チェック表での安全確認を徹底し、誤食等の事故は起こっていない。</p>

<p>(1) 保育環境</p>	<p>○「因島北認定こども園の食育年間計画」を基に、意欲をもって食にかかわる経験を積み、食事を楽しむ子どもに育てているか。</p>	<p>A</p>	<p>栽培・収穫、クッキング保育、三食食品運動（三色表の作成・給食放送）を通して食育を行った。</p> <p>保護者に園児が給食を食べる様子を参観してもらった。また給食試食会を行ったり、栽培した野菜を用いて保育参加日に親子クッキング（保育）を行ったりなどして、親子共に食と健康に関心を持たせることができた。</p> <p>尾道市食育部会に参加し「乳幼児期の食に関する保育カリキュラム」作成に携わり、特に0歳児クラスに対する食への取り組み方に役立った。</p>
	<p>○園児が自主的に活動できる環境の工夫が行われているか。</p>	<p>A</p>	<p>安田式体育遊び「こども忍者タイム」では、子ども達の興味・関心と個々の発達に合わせて、体育遊具の配置や使用するものの組み合わせを徐々に改善させたり、冬場にはマラソンを実行したりして心と身体の育成ができた。</p> <p>0歳児クラスでは、安全かつ安心して生活（養護と生命の保持）ができるよう出入口にカーテンを取り付けたり、窓に飾りをつけたりした。また感覚統合（五感）の発達を促す環境を整え感性の育ちを促した。</p> <p>1歳児クラスでは、食事と遊びのスペースを区別し安心して生活できるようにした。</p> <p>2歳児クラスでは、支援の必要な園児の成長や特性に配慮し、保育室の広さを変化させたり、生活と遊びのスペースを分類したりすることで、落ち着いた環境の中で発達を促すことができた。</p> <p>3・4・5歳児クラスでは、自分の好きな遊び（ままごと・絵本・制作・囲碁の体験活動等）ができるよう各コーナーの遊びのスペースを充実させた。ロフトでは、お化け屋敷ごっこやハロウィンの遊びを行い、遊びを発展させることが出来た。</p> <p>園舎内では、四季に応じた子どもたち手作</p>

<p>(2) 教育・保育内容</p>	<p>○園児一人一人を受容し理解を深めた働きかけや援助が行われているか。</p> <p>○園児の発達を促す取り組みが出来たか。</p> <p>○地域の教育力を活かした教育・保育内容が構築されているか。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>りの壁画を飾り、自分たちが育っている地域の自然の移り変わりを感じさせた。このことは園児に自然や地域に興味関心を持たせる一端を担い、情緒を豊かにすることにもつながっている。</p> <p>広島県教育委員会の乳幼児教育訪問事業を活用し、「乳幼児期に育みたい5つの力」及び「特別な支援を要する乳幼児の支援のあり方」について年間2回(12H:保育参観・各クラスの保育指導・指導案の指導)の研修を行い、教育・保育内容の向上に努めた。</p> <p>家庭環境の厳しい園児への取り組みとして、保育ソーシャルワーカーに来園してもらい、家庭の背景・園児を中心とした家族関係やその他の関係者がケース会議で明確にでき、課題を見極めその後の取り組みの方向性を導いていった。</p> <p>今年度の公開保育では、テーマを『のびのびと楽しく活動できる子どもの育成～絵本を入口に～』と題し、絵本を通して子どもを発達させる研究を行った。</p> <p>参加者からは、「絵本から様々な遊びに発展させることで子ども達が主体的に活動し、『絵本の読み合わせ』をすることで子どもも職員も絵本の面白さを共有し、関わりが広がっていた。絵本を通して保育実践し、子どもの学びにつなげていきたい。」という感想が聞かれ、公開保育のアンケートでは93%もの参加者から「のびのびと楽しく活動できる子どもに育っている」と高い評価を受けた。</p> <p>昨年度の取り組みに加え、グローバル社会に対応できる人材育成のスタートの一端を担うことを期待して、地域から講師を招聘し、年長児を中心に英語教室「ハローイングリッシュ」を計画・実践し、子どもたちの興味・関心を引き出した。</p>
--------------------	--	----------------------------	--

			<p>英語の体験活動では楽しく学ぶことが出来、11月の生活発表会では英語劇を発表することが出来た。新しいことに不安感を持っていた子どもも心を開きのびのびと発音し表現することが出来ていた。保護者からも園内で英語に興味をもち感性を豊かにしてもらっていることを喜ばれている。</p> <p>英語劇では、ダンスインストラクターにも指導をしていただき体を使ってのびのびと表現することの楽しさを味わうこともできた。</p>
小学校との連携	○小学校との連携が円滑に行われているか。	B	<p>アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの接続の視点「人と関わり主体的に学ぶ子どもの育成～聴く・話す・気付く活動の工夫を通して～」を具体的な活動として明確化させることで整合性や系統性が図られている。</p> <p>相互のカリキュラムの取り組みを情報交換し、授業参観や研修会・行事等の相互交流で滑らかな接続も図られるようになっている。</p> <p>今年度は、安田式体育遊び研究所長 居関達彦先生を招き、5歳児が因北小学校5年生・因北中学校3年生と一緒にそれぞれの学校で合同体育を行った。園児と生徒がお互いに親しみを持ち、楽しく活動することで連携を図ることが出来た。</p>
子育て支援 (1) 保護者への支援	○保護者と信頼関係を築き連携や情報交換を行いながら教育・保育に関する理解を深めているか。	A	<p>昨年度から引き続き、教育・保育の可視化と内容の理解を深めるため、保護者向けに【ドキュメンテーション】を作成してきた。</p> <p>子育て支援室(こっこ組)や一時保育室(いちご組)を含め全クラスが定期的継続的に作成し、玄関に掲示して保護者や来園者に見ていただき理解を深めてもらった。保護者からは「日々の保育や子どもの姿がよくわかってよかった」という感想が聞かれた。</p>

<p>(2) 地域への支援</p>	<p>○保護者支援の方法について専門性を持っているか。</p> <p>○地域の子育て支援の拠点として、地域の子育て家庭を対象とする子育て支援を行っているか。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>また親子で観覧することで会話が生まれ親子関係を豊かにすることにもつながった。</p> <p>乳幼児教育訪問事業を活用し、2名の幼児教育アドバイザー（元保育所長）と1名の特別支援学校教諭に、保護者への対応の仕方について学ぶ。</p> <p>保育ソーシャルワーカーに来園してもらい、保護者への支援の方法について学んだ。引き続き、適正な対応についての研鑽を積みたい。</p> <p>子育て支援室（こっこ組）では、遊びの場を提供し、必要に応じて子育て相談や子育てに関する情報を提供した。</p> <p>また、こども園の生活や遊びを親子で経験してもらうために『園庭開放』や『こっこのフェスティバル』を開催し、戸外遊び・体育遊び・制作遊び・タッチケア（ベビーマッサージ）・子育てママのヨガ教室等を計画し実施した。</p> <p>今年度から「ミニ子育て講座」を開催し、広島県保育連盟からの子育て情報を基に作成した自園のお知らせ「子育てBOX」の内容を引用して子育てに役立つ話をしていった。保護者からは、日頃の子育ての悩みを話され、保護者同士が思いを共感したり、講話者のみならず先輩ママからのアドバイスを受けて安心して悩みが話せる場となった。</p> <p>「家庭にいるとどのくらい成長しているのか計測する機会がない」という保護者の悩みから、子育て支援室でも、身体測定を行った。そうすることで子どもの健康管理に役立ててもらった。</p> <p>一時保育室（いちご組）では、保護者が安心して未就園児を預けられるよう安全面に配慮し、保育実践を実施しながら信頼関係を築いていった。</p>
-------------------	--	-------------------	--

<p>子どもの安全</p> <p>(1) 安全管理</p>	<p>○事故や災害、不審者に適切に対応できる体制があるか。</p>	<p>A</p>	<p>交通安全指導や安全指導を含む保健衛生指導を毎月実施。今年度は保護者にも知ってもらうために「ねらいと内容」「指導を受けている子どもの姿」「保護者に対する啓発」について写真と共に文書を記載したドキュメンテーションを掲示できた。</p> <p>不審者対応訓練は、年に2回行った。1回目は映像を基に「いかのおすし」(行かない・乗らない・大声を出す・知らない人についていかない)の合言葉を定着させていった。2回目の訓練では、因島警察署の方に不審者に変装してもらい、職員の不審者に対応する様子や子どもを避難させる様子を見てもらい指導を受けた。門扉のオートロック化や防犯カメラの活用・職員の対応等、防犯体制について高い評価をいただいている。</p>
<p>(2) 衛生管理</p>	<p>○食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づき適切に実施しているか。</p>	<p>B</p>	<p>日頃から看護師の指導もあり職員研修の実施により衛生管理の徹底を図っている。感染症が流行した場合には、罹患児数を最小限にとどめるため各年齢に応じた手洗い・うがいを徹底させ、保育室の清掃・換気・消毒、玩具の消毒等を定期的または、必要時に行った。</p>
<p>(3) 危機管理</p>	<p>○危機管理マニュアルに基づき園児の安全に留意し適切に対処しているか。</p>	<p>B</p>	<p>毎月の職員会議で、リスクマネジメント計画に沿って研修をしていった。ヒヤリハットやケガの報告(事故報告書等)・危険な箇所の情報共有等を行うことで職員の危機管理・危険回避に対する意識を高めた。来年度は安全マップを作成し、更に意識を高めた。</p>
<p>運営管理</p> <p>(1) 組織運営</p>	<p>○職員間の信頼関係を築き教育・保育についての意識統一ができており、それぞれの適切な役割が</p>	<p>B</p>	<p>研修会の持ち方として、研修報告に関しては印象的だった感想を述べるにとどまり、詳しくは資料や報告書の回覧をすることとした。</p>

<p>(2) 守秘義務の 厳守</p>	<p>できているか。</p> <p>○保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持をはかっているか。</p>	<p>B</p>	<p>限られた研修時間を職員の専門性を育み有意義な時間とするため、グループワークを行い、若手職員・中堅職員・ベテラン職員（主任）がそれぞれの考えを出し合ったのち、全体の場で報告し合い、課題に対しての取り組みに専門性を持たせ共有することができた。</p> <p>このような研修会を基に主体的で同僚性を生む関係性を築いていった。</p> <p>午前のミーティングでは当日の出欠席状況や健康状態を、午後のミーティングでは翌日の内容や今後の動き等、様々な情報を交換している。知りえた個人情報仕事以外では口外しないことを常に徹底している。</p>
-------------------------	---	----------	--

4 第三者評価委員からの具体的な目標や計画の総合的な評価結果と今後

結果	理由
<p>A</p>	<p>今年度も、新設4年目の新しい環境の中で園児の自主的な活動を育むための保育環境の整備や工夫をはじめ、発達援助の視点も入れながら、新しい教育・保育内容の創造に向けてたゆまぬ努力がされてきている。とりわけ、本園の教育・保育目標『心も身体ともに豊かな人間形成の基礎を培う』に向けて、各年齢の具体的な目標や計画を設定し、その実現のために年間を通して毎週の教育関係者からの指導を受け教育・保育内容の向上に努めてきたことは高く評価したい。</p> <p>公開保育での「絵本の読み合わせ」から子どもの遊びや関わりを広げさせ学ばせ発達を促す実践紹介や、生活発表会での地域人材を活用した英語の活動の年長児の楽しく生き生きとした姿は印象深い。</p> <p>また、保護者への子育て支援を促すための一環として、日常的な教育・保育を積極的に紹介していくことや子育て講座の開設は好評を得ている。</p> <p>子どもの安全・安心に関わる天災等の災害対策や食育(食物アレルギー)や感染症(インフルエンザ)や不審者対応の危機管理等についても、職員研修を積みながら適切な対応がされている。</p> <p>今後、次年度の年間指導計画を立案するうえで、教育・保育内容の“スクラップ&ビルド”意識することが必要である。</p> <p>また、保護者対応において職員間の信頼関係に基づいた情報共有を徹底し、保護者の思いや願いを受け止めながらも子育ての支援をしっかりサポート（助言や指導）できる多様な資質や専門性を培って欲しい。</p>